

はらじゅくかわら版



国立病院横浜医療センターの理念

私たちは、患者様の人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける患者様中心の医療を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供すると共に、関係医療機関と密接な連携をもつ地域完結型医療を目指します。

私たちは、健全な病院運営を心懸け、患者様がより良い診療が受けられ、地域で選ばれる病院になるべく日々努力していきます。



今後ともよろしくお願い致します

幹部職員 上段左から

渡辺医事課長

芦沢教育主事

阿津看護部長

金城庶務課長

下段左から
平田会計課長

荒井薬剤科長

西山診療部長

藤津臨床研究部長

青崎副院長

高橋院長

山本事務部長

創刊号 目次

発刊によせて・・・・・・・・・・・・・ 2

お知らせコーナー

地域医療連携室・・・・・・・・・・・・・ 3

医療安全管理室・・・・・・・・・・・・・ 5

シリーズ

職場紹介・・・・・・・・・・・・・ 6

栄養相談・・・・・・・・・・・・・ 7

時節の病気・・・・・・・・・・・・・ 8

患者数の動向／編集後記・・・・・・・・・・・・・ 9

外来診療担当医・・・・・・・・・・・・・ 10

発行 月：平成15年7月

発行 行：国立病院横浜医療センター広報委員会

発行責任者：高橋 俊毅

住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2

電 話：045-851-2621

F A X：045-851-3902

U R L：http://www.hosp.go.jp/ yokoham

地域で選ばれる病院になるために

国立病院横浜医療センター 院長 高橋 俊毅



「はらじゅくかわら版」の発行にあたりごあいさつ申し上げます。ここ戸塚は東海道の有名な宿場町で飛脚やかわら版での情報発信をイメージしております。「はらじゅくかわら版」は院内紙を院外向けに衣替えし、地域の住民の方や医療機関の方々などとの交流の情報誌として当面3ヵ月ごとに発行予定です。

当センターは平成15年3月1日に国立横浜病院と国立横浜東病院が統合し、施設や人員などに限りのあった国立の医療資源を一つに結集してより高い水準できめ細かい医療サービスを提供し「国立病院横浜医療センター」として地域で選ばれる病院になるべく決意を新たにしています。箱根駅伝が通る国道1号線の渋滞で有名なすぐお隣の原宿交差点も立体化が予定されており、当センターの建物もきわめて近い将来に全面的に更新築される予定です、今よりもさらに規模が拡充されご利用しやすくなる予定です。

「選ばれる病院になるために」は横浜市戸塚区をはじめ泉区、栄区、港南区や藤沢市や鎌倉市、茅ヶ崎市と周辺地域には優良な医療を提供する病院が数多くありますがその中で受診や入院の時に当センターを選んでいただけるように院内の体制を改善していこうという意気込みです。

入院病床数は580床ですが当初は入院可能病床480床で運用いたしております。

今回新たに心療内科、アレルギー科（リウマチ・膠原病を含む）、形成外科、歯科・口腔外科の4科が開設され26診療科となり、主たる診療は政策医療として、がん、循環器病、精神疾患、母性や小児の成育医療、内分泌・代謝疾患、骨・運動器疾患と肝疾患に関する専門的な医療を行います。全国で13の国立病院が指定されている災害時の診療支援機能を備え、高度で総合的な医療を行う高度総合医療施設でもあり、救命救急センターとして三次までの救急医療を行うなどから「医療センター」の名称をいただいています。国立病院には政策医療ネットワークが組織されており、国立がんセンターをはじめとするナショナルセンターなどと連携して各診療科で高度で専門的な医療や臨床研究、医療関係者などへの教育研修や情報発信などにも取り組んでいます。

さらにエイズ治療拠点病院、臓器移植提供病院、臨床研修指定病院でもあります。救急医療では三次の救命救急医療はさらに強化する予定ですが、小児や心臓血管疾患や母児などの二次救急にも参加してまして女性外来などの各種専門外来と共に地域の医療機関との連携を密に

した地域完結型医療の一翼を担ってまいります。

平成16年度に私ども国立病院は独立行政法人に移行いたします。患者様中心で安全と情報公開を心がけ、質の高い医療を提供し、与えられた使命を誠実に実現すべく古い体質を捨て新しい時代へ変化する勇気を持って私をはじめとして職員一同努力いたします。

当センターが地域で選ばれ、これまで以上に利用していただける病院になるには多くの課題があると自覚しています。どうぞ皆様にはこれからも忌憚のないご意見をお寄せいただき、私どもを鍛えていただきたくお願い申し上げます。



地域医療連携室について

現在、医療技術の進歩や高齢社会の進展で一施設において完結型の医療を求めることが困難となっています。そこで、新しい医療供給システムといわれている「地域医療連携」の構築が求められています。プライマリー・ケアの機能が発揮できる「かかりつけ医」と組織医療をになう病院との上手な連携が効率的な医療の推進につながります。その結果、質の高い医療サービスの提供と医療資源の有効活用が期待されてきます。地域医療連携室において連携システムを効率的に機能させて、地域の患者様、ご家族が安心して治療の継続と療養とができるように支援する役割を目指します。

1. 業務場所

地域医療連携室（管理棟2階）

2. 業務内容

- 1) F A Xで送信される患者紹介状の取扱（毎日）
初診受付と紹介先診療科への患者紹介状（FAX）・カルテの搬送
（来院日の確認と各診療科への伝達調整）
- 2) 紹介状持参患者のデータ入力（毎日）
- 3) 紹介状持参の患者に対する紹介元医師に対する「来院報告」のF A X送信（毎日）
- 4) 外来診療担当変更時に「外来診療担当表」の医師会・開業医等への発送、近隣の開業医・病院に対して当院へ患者を紹介していただくための文書等の発送（随時）
- 5) 紹介患者・逆紹介患者数の集計表の作成（科別、地域別、病院別等）及び横浜市医師会地域医療連携センターへの集計表の送信（月初め）
- 6) 逆紹介患者票の送信（毎日）
- 7) 超音波検査（腹部・甲状腺・頸動脈）、CT・MRI・RI検査、脳波検査及び放射線治療の他施設からの予約受付（随時）、同初診受付と紹介先診療科への患者紹介状（FAX）・カルテの搬送
- 8) 上記に係る検査レポートの送付（随時）（同集計業務）
- 9) 毎月の「宿日直勤務表」の救急隊への送信（月末）



写真左から
中川医療社会事業専門員
泉医事専門官
室長 西山診療部長
笠原統計病歴係長（筆者）
辻地域連携室員

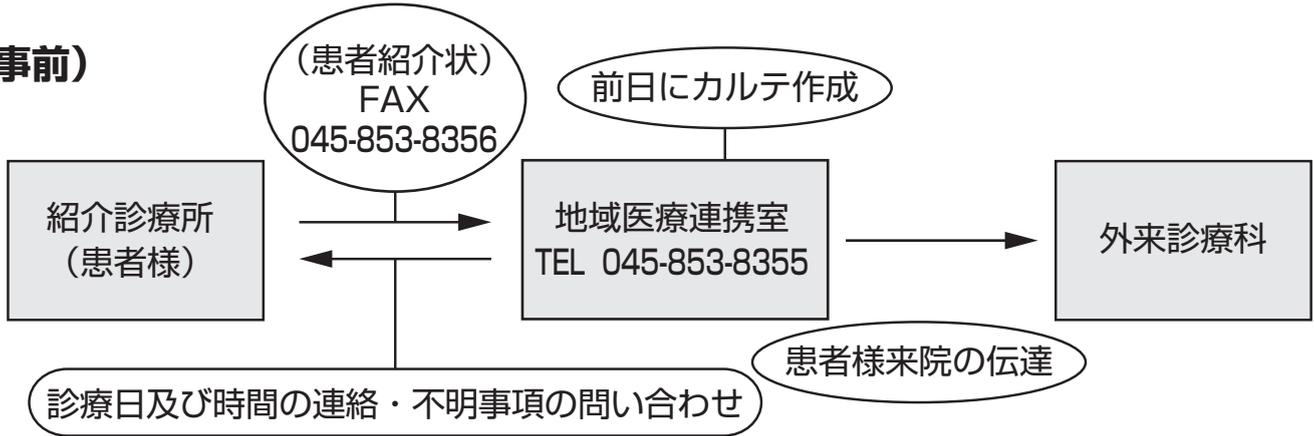
地域医療連携室

TEL. 045-853-8355
FAX. 045-853-8356

内線（2275）

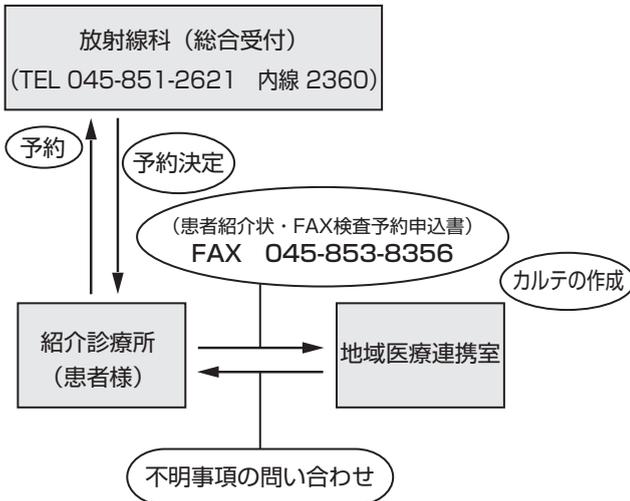
診察の予約紹介フローチャート

(事前)



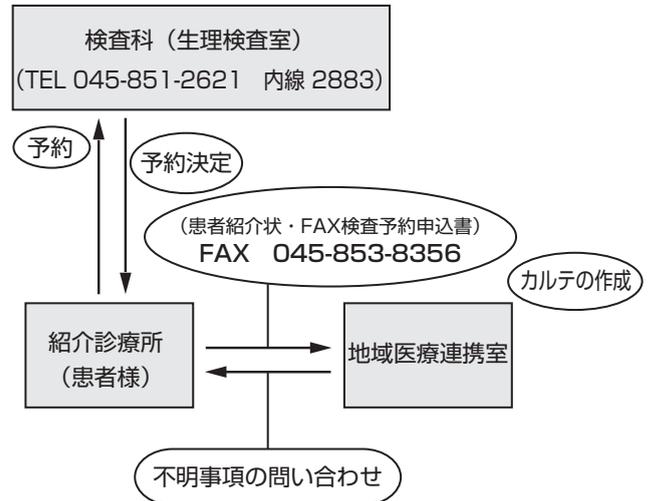
CT・MRI・RI検査予約フローチャート

(事前)



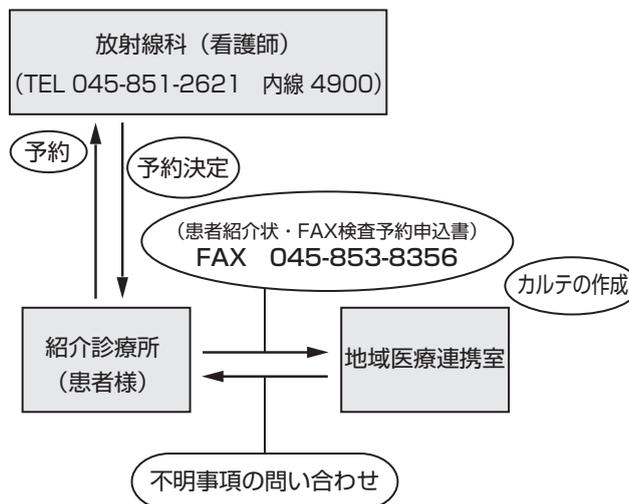
超音波・脳波検査予約フローチャート

(事前)



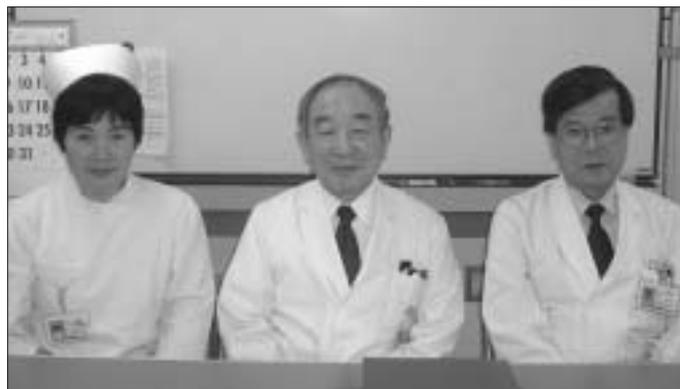
放射線治療予約フローチャート

(事前)



医療安全管理室より

平成15年3月1日、国立病院横浜医療センターとして、新たな出発をして、4ヶ月経過いたしました。あわせて、医療安全管理室の設置、医療安全管理者（専任リスクマネジャー）の任命もいただき、医療安全管理室は、室長（副院長）以下、医療安全推進担当者（リスクマネジャー）総勢50名の専門職集団が誕生しました。



医療安全管理者
富田看護師長（筆者）

室長
青崎副院長

西山診療部長

1. 日々の実践活動

医療安全と安全文化の醸成を活動の基盤において、現在、最も力を注いでいることは、職員が体験しているヒヤリ・ハット（インシデント）報告の推進です。報告の提出基準は、職員であれば当事者、発見者、報告者の誰でも無記名で報告できることとし、自主的で、積極的な報告ができるよう働きかけています。5月を境に報告総数は2倍の158枚に達し、6月も同様です。この報告の中から、毎週1回、重大な事故に繋がりやすいもの・頻度の多いものに焦点をあて、作業部会（ワーキンググループ編成）で評価・分析し、業務改善の提言や実施への取り組みを行なっています。

2. SARS対応への活動

7月、SARS対応への理解を深め、適切な対処ができることを目的として、院内感染防止対策委員会と連携し、当直時間帯でのシミュレーションを実施しました。



SARSの疑いがあるとの事でマスク着用を患者に依頼します。（N-95A）



患者を待機場所へと案内します。医師は完全防護（スタンダードプリコーション）(レベル5) 看護師長はマスク（N-95A）着用

職 場 紹 介

今回は内科を紹介します。



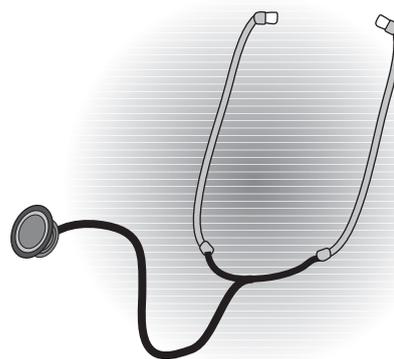
内科医長 宇治原 誠

内科は、糖尿病・内分泌代謝疾患を専門として診療しています。また、アレルギー・リウマチ科と合同で、総合内科外来を開設し、一般内科診療も行っていきます。糖尿病の診療では、平成14年7月に看護部、薬剤科、栄養管理室、リハビリテーション科、臨床検査科と合同で、「糖尿病チームケアユニット」を設立し、各部門のスタッフと合議を重ねながら、個々の患者様の病状、生活状態に応じた治療を行っています。また、戸塚区、泉区の開業医の先生方と糖尿病の連携診療を行っています（戸塚糖尿病ネットワーク）。これは、病状の安定した糖尿病患者様を、お近くの開業医の先生の外来で定期的に診療していただき、糖尿病が悪化した患者様や教育入院が必要な患者様を「糖尿病チームケアユニット」で診療するというものです。戸塚糖尿病ネットワークは平成13年11月に設立しましたが、これまで200名を超える患者様が開業医の先生の紹介により入院され、病状が落ち着いた後、紹介元の先生に戻られています。平成14年8月からは、「糖尿病チームケアユニット」看護師の発案で、お仕事などで忙しい糖尿病患者様のための、「週末三泊四日糖尿病入院」を開始しました。この超短期の入院でも糖尿病病状の安定に大きな効果があり、これまでに30名以上の患者様

が利用されています。

内科は、糖尿病以外にも、甲状腺、副腎、脳下垂体、性腺などのホルモンの病気（内分泌疾患）も専門として診療しています。更年期障害などのホルモン補充療法も行っています。「内科」医師は、現在、多胡克哉、高木佐知子、宇治原誠の3名です。出身は、宇治原は熊本ですが、多胡は鎌倉市、高木は横浜市栄区と地元です。3人に共通しているのはテニスに興味であることで、一月に一度「糖尿病チームケアユニット」のスタッフと、運動療法と称し、テニスをしています。

「内科」は糖尿病・内分泌代謝科として診療を開始して3年目になりました。糖尿病チームケアユニットのスタッフ（チームメイト）とともに、診療技術、システムの向上を常にはかりながら、戸塚地域の皆様の健康維持に貢献できるよう努力してまいりたいと思います。



栄養相談

<生活習慣病とは…まさに普段の生活習慣から>

「生活習慣病」は突然起こるものではありません。普段の生活習慣の積み重なりと、遺伝やストレスなど環境的な要素がいろいろ絡み合って発症します。

糖尿病・高脂血症・高血圧症・心疾患・がんなど、これらの「生活習慣病」は、増加の一途をたどっています。

生活習慣病予防の第一歩は、食生活の改善です！！高エネルギー・高脂肪の食事や野菜不足、塩分の摂り過ぎなどは、これらの病気の誘因となります。

皆様はいかがですか？食べ過ぎていませんか？食事の基本は、体に必要な栄養素をバランス良く過不足なく摂ること。食べ過ぎてても不足でも健康を害します。



～さて質問です。いくつ当てはまりますか??～

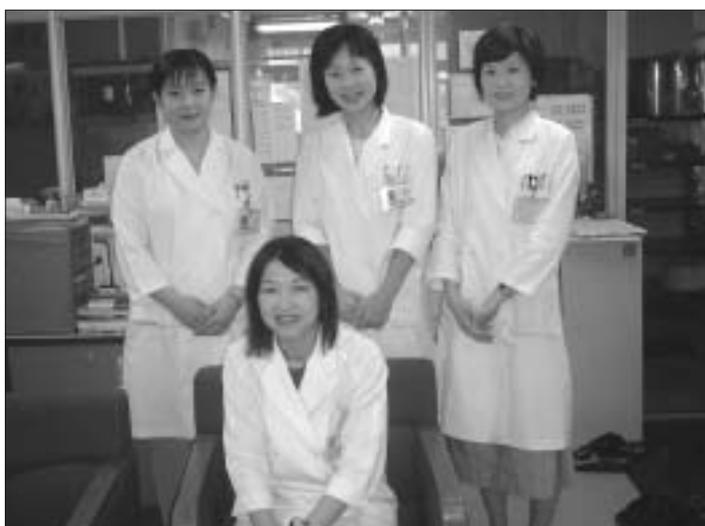
●CHECK!

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 太っている方だ | <input type="checkbox"/> 濃い味が好き |
| <input type="checkbox"/> 脂っこい料理が好き | <input type="checkbox"/> 欠食が多い |
| <input type="checkbox"/> 野菜が少ないと思う | <input type="checkbox"/> 私は早喰いだ |
| <input type="checkbox"/> お酒・お菓子は
やっぱりやめられない | <input type="checkbox"/> いつも食べ終わると
満腹！満腹！ |

ええ～っ！！全部!?

直ちに栄養相談室にてお会いしましょう。

また、食生活全般についてのご相談を受け付けております。お気軽に主治医までお申し出下さい。

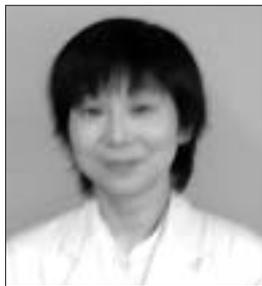


栄養管理室（栄養士）

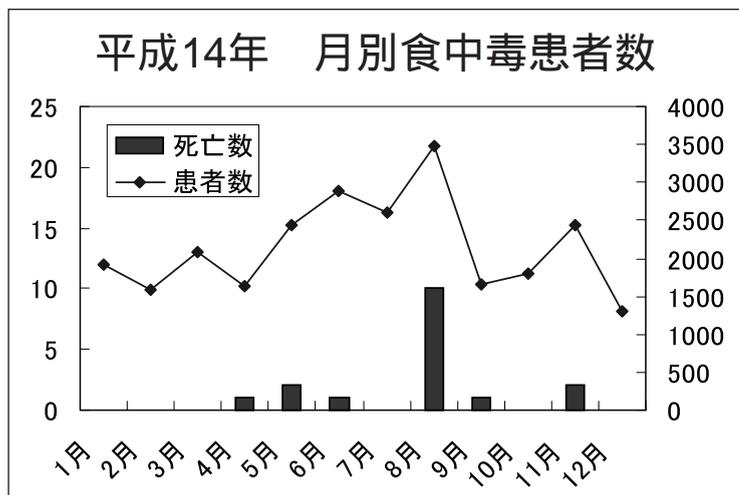
写真上段左から
落合栄養係長（筆者）
馬場栄養主任
富田栄養士
川村栄養管理室長（前列）

時節の SUMMER 病 気

食中毒のはなし



アレルギー科医長
青木 昭子



食中毒についてのおすすめサイト

- ◆厚生労働省
<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/>
- ◆食品衛生協会
<http://www.jfha.or.jp/>
- ◆食品産業センター
<http://www.shokusan.or.jp/>

いつも元気なAさん、その日はいつになく忙しく昼食を食べ損ねてしまいました。やっと仕事がひと段落した夕方6時、弁当に持ってきた自家製おにぎりをやっと食べることができて家に帰りましたが、夜9時激しい腹痛、下痢、嘔吐で息も絶え絶えとなり、病院を受診しました。

皆さんもこんな経験はありませんか。Aさんを苦しめたのはブドウ球菌が産生したエンテロトキシンという毒素です。素手でおにぎりを作ったこと、さらに蒸し暑い室内に16時間も放置してから食べたことが食中毒の原因でした。

有害物を含む飲食物により生じた健康障害を食中毒と呼びます。有害物質には微生物（細菌、ウイルスなど。先ほどのブドウ球菌は細菌のひとつです）のほか自然毒（ふぐやきのこの毒など）、化学物質などがありますが、微生物によるものが全体の9割を占めています。

昭和35年の患者数は3万2千人、死者は218人、平成12年の患者数は4万3千人、死者は4人、と死者は減少していますが、患者数はここ30年間減少していません。平成8年の腸管出血性大腸菌O157による死者、平成12年の加工乳のブドウ球菌による集団食中毒はまだ記憶に新しいところです。

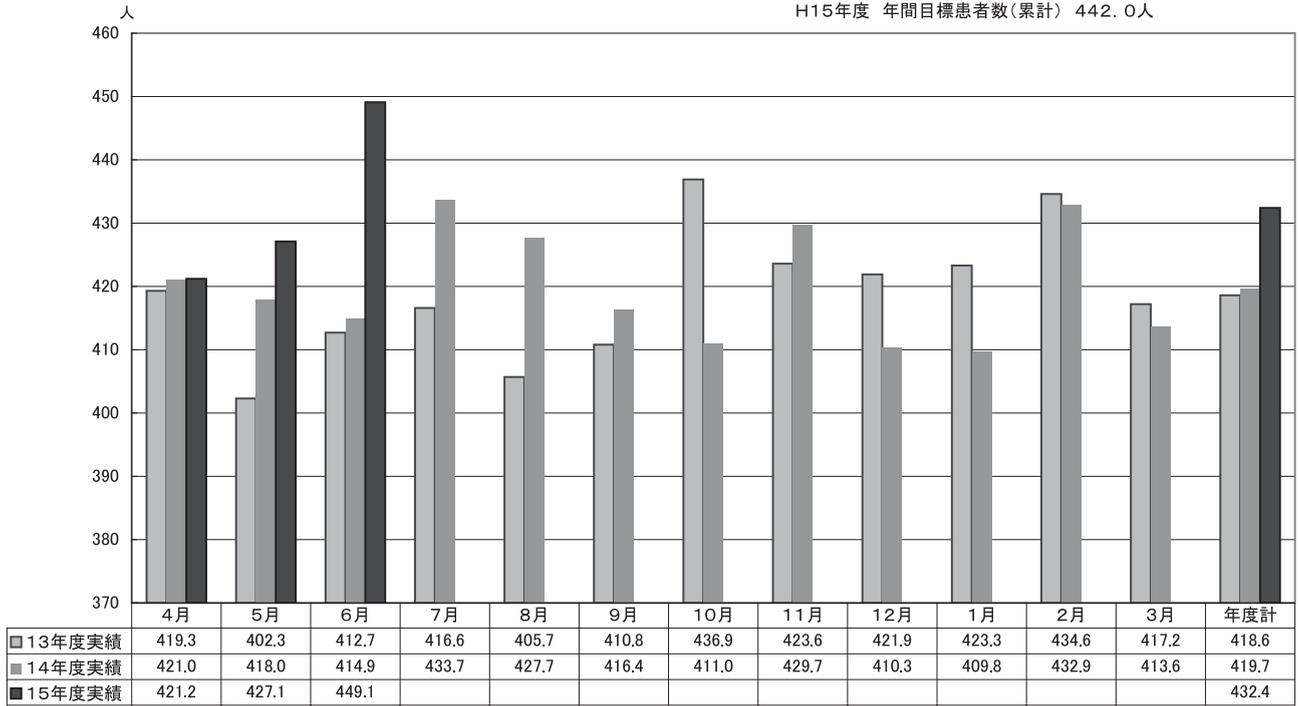
食中毒は年間をとおして発生しますが、細菌性食中毒の発生は暑い夏に多くなっています。また食中毒の20%が家庭での食事で発生しています。食中毒予防の3原則、食中毒菌を「付けない、増やさない、殺す」を徹底して、健康な日々を過ごせるようにしましょう。

患者数の動向

入院患者数年度別月別比較

(H15年6月30日現在)

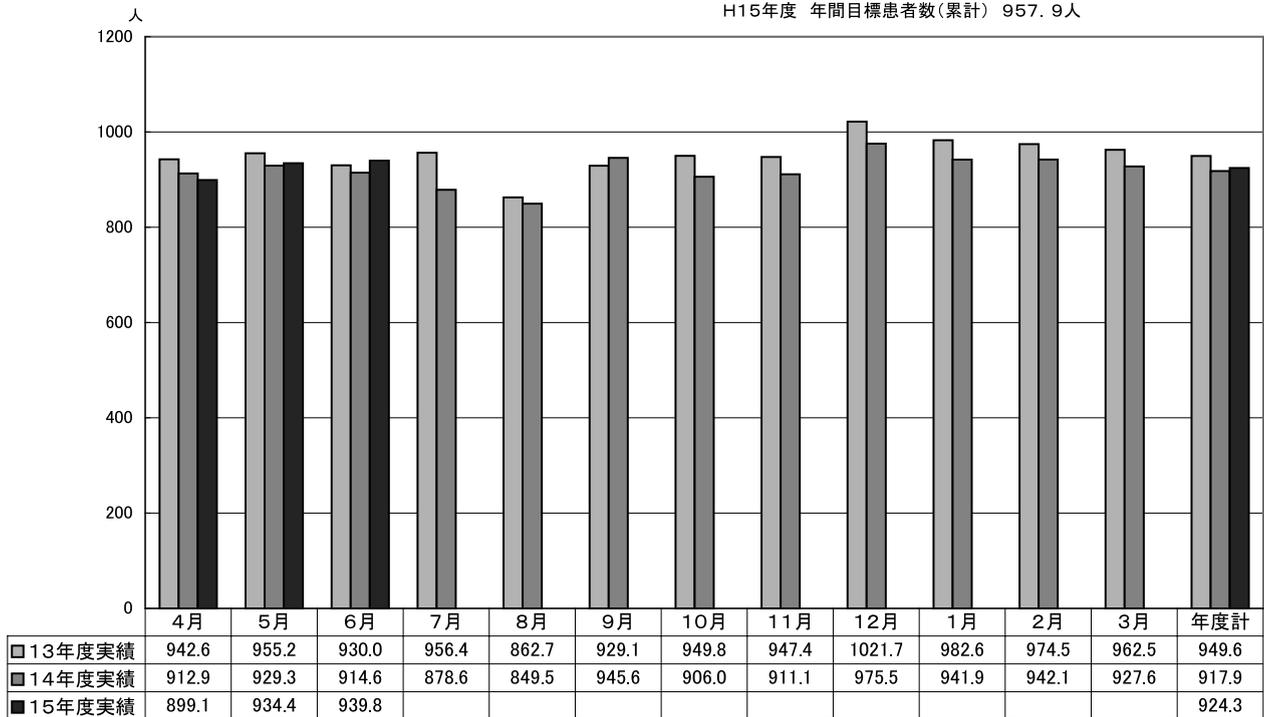
H15年度 年間目標患者数(累計) 442.0人



外来患者年度別月別患者数

(H15年6月30日現在)

H15年度 年間目標患者数(累計) 957.9人



編集後記

皆様のお力添えにより無事（やっと）第1号を発刊することができました。次回以降、もっともっと充実した内容にしたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

(編集委員 松下 守)

国立病院横浜医療センター 外来診療担当医表

平成15年8月1日現在

診療科・曜日	月	火	水	木	金	備考	
総合内科・初診	高木佐知子	交代医師	井上優子	青木昭子	青木昭子	△: 午後のみ診療 ▲: 紹介状持参の方のみ	
内科	検査日	多胡克哉	宇治原 誠	宇治原 誠	検査日		
神経内科	桃尾隆之	検査日	△山口滋紀	桃尾隆之	検査日		
呼吸器科	椿原基史	検査日	橋場友則	検査日	椿原基史		
消化器科	山口尚子	塚田百合子 △小松達司(肝)	松島昭三 岸野真衣子	磯野悦子 高山敬子	小松達司		
循環器科	青崎正彦 巽 藤緒	加藤丈二 岩出和徳	田中直秀	▲田中直秀	野本文子 岩出和徳		
アレルギー科	青木昭子	検査日	検査日	△井上優子	検査日		△: 午後のみ診療 予約制 14:00~16:00
心療内科	検査日	久保田真司・長治裕子	検査日	小澤篤嗣	検査日		
精神科	久保田真司 長治裕子	小澤篤嗣	浅見 剛	久保田真司	小澤篤嗣		
小児科	伊部正明 志賀綾子	福山綾子 友野順章	伊部正明 志賀綾子	福山綾子 伊部正明	伊部正明 友野順章		
外科	若杉純一 大田真由 (外来手術日)	西山 潔 長嶺弘太郎	◇大滝修司 急患・新患のみ (交代医師)	土井卓子 高倉秀樹	◆高橋俊毅 急患・新患のみ (交代医師)	◇: 第2・第4水曜日 予約制 ◆: 予約制	
整形外科	岡田周介 吉田幸司 加藤慎也	日塔寛昇 岡田周介 鈴木毅彦	岡田周介 加藤慎也 鈴木毅彦	日塔寛昇 塩川健夫 鈴木毅彦	塩川健夫 吉田幸司 茅野真子	(受付時間) 初診・予約外再診とも 8:30~10:00	
形成外科	高瀬 税	高瀬 税	△高瀬 税	手術日	高瀬 税	△: 手術日(午後~)	
脳神経外科	急患のみ (手術日)	松永成生	竹本安範	急患のみ (手術日)	藤津和彦 橋田要一		
心臓血管外科	東館雅文	手術日	検査日	大野英昭	東館雅文		
皮膚科	脇田加恵 嶋村祐美 鈴木理華	脇田加恵 嶋村祐美 鈴木理華	脇田加恵 嶋村祐美 鈴木理華	脇田加恵 嶋村祐美 鈴木理華	脇田加恵 嶋村祐美 鈴木理華		
泌尿器科	本田直康	本田直康	手術日	黒坂真二	本田直康		
産婦人科	婦 中村秋彦 産 川上香織	鈴木良知 外村光康	糸数 功 鈴木良知	中村秋彦 糸数 功	外村光康 中村秋彦		
眼科	設楽幸治 森 旅宇子	設楽幸治 森 旅宇子	設楽幸治 森 旅宇子	設楽幸治 森 旅宇子	急患・初診のみ (手術日)	(受付) 初診・予約外再診とも 月~木曜日 8:30~10:00 初診のみ 金曜日 8:30~9:30	
耳鼻咽喉科	山田昌宏 花村英明	山田昌宏 今井容子	手術日	花村英明	山田昌宏 花村英明		
放射線科	栗原須生美 ※注①	金原一弘 ※注②	日下部きよ子 (甲状腺外来) ※注③		金原一弘 ※注①	※注① 月・金曜日 8:30~11:00 ※注② 火曜日 13:30~15:00 ※注③ 診察日は放射線科にお問い合わせ下さい。	
歯科口腔外科	塩入重彰 飯嶋 亨	塩入重彰 飯嶋 亨	手術日	塩入重彰 飯嶋 亨	塩入重彰	新患(紹介状を持参して下さい)は、火・木曜日の午前(8:30~11:00)。その他は再診のみ	
専門外来 (午後のみ)	小児	発達(福山) 神経(筑丸) ※第4週	感染免疫 (伊部) 腎(中村) ※第1週	予防接種 (志賀・友野)	乳児検診 (福山・友野)	喘息(伊部・志賀) 循環器(瀧間) ※第3週	
	外科		乳腺外来(超音波検査) (土井) ※注④		乳腺外来(乳癌検診) (土井) ※注④⑤	※注④ 担当: 女性医師 乳腺炎、乳癌など乳腺疾患全てを対象としています。 ※注⑤ 横浜市乳癌検診の受付: 13:30~15:00	
		癌化学療法外来	癌化学療法外来	ストーマ外来 ※第2週	癌化学療法外来		
	女性診療外来	※注⑥				※注⑥ 担当医: 土井、青木、脇田、磯野、山口 女性医師の診察を希望される方は、科にこだわらず受診できます。なお、女性診療外来日以外に、皮膚科では月~金曜、外科では木曜に女性医師が担当しておりますので、こちらの方もご利用下さい。	
	脳外			脳ドッグ (要予約)			
	産婦	母親教室			母乳外来		
	耳鼻	補聴器外来 腫瘍外来	アレルギー外来		補聴器外来	学童外来	
	アルコール					交代*注⑦	
	循環		ベースメーカー外来 ※注⑧				

初 診 受 付 : 平日 8:30~11:00 但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり
再 診 (予 約 外) 受 付 : 平日 8:30~11:00 但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり
休 診 日 : 土曜・日曜日・祝日・12月29日~1月3日

急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)

紹介状をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。

地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月~金 8:30~17:00) FAX 045-853-8356
TEL 045-851-2621 (時間外、土、日、休日)